

令和元年度 農林水産業版タウンミーティング（農業版：青森地区）会議概要

日 時：令和元年8月9日（金）18：00～19：30

場 所：荒川市民センター 2階 会議室（A）

参加者数：15名

市側出席者：市長、農林水産部長、農林水産部次長、農業政策課長、あおもり産品支援課長、農業振興センター所長、農地林務課長、都市整備部建築指導課長、農業委員会事務局長、農業委員会事務局次長

■昨年度いただいたご意見への対応状況

⇒ 配布資料のとおり

■主なご意見・ご要望等

○長年、農事振興会長として市の農政推進に貢献された方を、市でも表彰して欲しい。

⇒ 本市の公共の福祉増進に功労のあった方、または広く市民の模範となるべき方を表彰する「青森市表彰」では、「産業・経済等の振興発展に寄与し、その功績の著しい者」も表彰の対象としていることから、今後、推薦する候補者について、青森市連合農事振興会の役員の方々と協議させていただきたいと考えている。

○ほ場整備を実施するには、高収益作物の導入が条件となっている。新たに高収益作物に取り組むために必要な機械や施設の導入に対して市で助成して欲しい。

⇒ 高収益作物に取り組むための機械や施設の導入にあたっては、新たに取り組む奨励作物について、農業機械やパイプハウス導入費等を補助する国の「産地パワーアップ事業」を青森農業協同組合ミニトマト部会が活用して、パイプハウスを平成29年度に17棟、平成30年度に6棟を設置したところである。また、スマート農業機械の優先枠が設けられている国の「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」を活用し、今年度は、オート田植機2台の導入が予定されている。さらに、県の「野菜等産地強化総合対策事業」などの事業を活用でき、市としては、申請者が事業に採択されるよう事業計画書の作成等について支援しているところである。

加えて、市では独自に、トマトを重点的に取り組むべき作物として位置づけ、農家所得の向上を図ることを目的に創設したトマトハウス導入経費を補助する「トマトハウス整備事業」を実施しているので、新たに取り組む場合には活用していただきたい。

○スマート農業の普及を進めていくためには、ほ場（田）を大区画化し、効率的で生産性の高い農業を行っていく体制づくりが重要だと考えている。ほ場の大区画化に向けて、ほ場整備を進めて行ってほしい。

⇒ 市では、狭小で不整形な農地の区画の整形・拡大と、農道や用排水路などの施設の一体的な整備を実現し、大型機械の導入及び農地の集積による農業の生産性の向上と生産コストの縮減、地域農業を支える担い手の育成を図るため、ほ場整備事業の推進に取り組んでいる。

平成30年度末までに、八ツ役地区、諏訪沢地区、荒川中部地区の3地区の整備が終了し、ほ場整備の割合（水田面積のうち、ほ場整備を実施済みの面積の割合）は、78.1%（青森地区 68.6% 浪岡地区 97.9%）となっている。